

文学部カリキュラムポリシー<2020年度以降入学者>

| | 大学共通 | 文学部 英語英米文学科 | 文学部 日本文学科 | 文学部 国際文化学科 | 文学部 現代社会学科 |
|-----|--|--|--|---|---|
| CP | 成蹊大学は、「学位授与の方針」を踏まえ、次のような方針で教育課程を編成・実施します。 | | | | |
| CP1 | (CP1) (各学科、各専攻の)専門分野を系統的・体系的に学修できるように、各科目を適切に配置する。 (CP1-1) 科目群(フォーカス)において、入門講義・基幹科目・発展科目を置き、段階的に学ぶことで、系統・体系的に学修する。 (CP1-2) 本学科の専門知識のみならず、広い教養と汎用性を身につけた、高い能力を持つ中学校・高校の英語の教員を養成する教職課程を設ける。 | (CP1) 英語英米文学科の専門分野を系統的・体系的に学修できるように、各科目を適切に配置する。 (CP1-1) 科目群(フォーカス)において、入門講義・基幹科目・発展科目を置き、段階的に学ぶことで、系統・体系的に学修する。 (CP1-2) 本学科の専門知識のみならず、広い教養と汎用性を身につけた、高い能力を持つ中学校・高校の英語の教員を養成する教職課程を設ける。 | (CP1) 日本文学科の専門分野を系統的・体系的に学修できるように、各科目を適切に配置する。 (CP1-1) 本学科専門科目の中に、導入科目を配置した「基礎科目」群、演習科目と卒業論文を配置した「基本ゼミ科目」群、専門分野に関する講義科目を配置した「文学史科目」「日本文学講義科目」「日本語学講義科目」群を設けてカリキュラムの柱とするとともに、関連分野・周辺分野を学修できるように「学際科目」「日本探究科目」「日本語力錬成科目」群を設ける。 (CP1-2) 本学科の専門知識のみならず、広い教養と汎用性を身につけた、高い能力を持つ中学校・高校の国語の教員を養成する教職課程を設ける。 | (CP1) 国際文化学科の専門分野を系統的・体系的に学修できるように、各科目を適切に配置する。 (CP1-1) 歴史・文化研究、文化人類学、国際関係研究に関する選択必修科目を構成し、初級から上級まで体系的に学修できるように配置する。 (CP1-2) 本学科の専門知識のみならず、広い教養と汎用性を身につけた、高い能力を持つ中学校の社会あるいは高校の地理歴史・公民の教員を養成する教職課程を設ける。 | (CP1) 現代社会学科の専門分野を系統的・体系的に学修できるように、各科目を適切に配置する。 (CP1-1) 社会学及びメディア研究のそれぞれに関して、基礎科目群と発展科目群を設けることで、体系的に学修できるように配置する。 (CP1-2) 本学科の専門知識のみならず、広い教養と汎用性を身につけた、高い能力を持つ中学校の社会あるいは高校の地理歴史・公民の教員を養成する教職課程を設ける。 |
| CP2 | (CP2) 広い教養と汎用性の高い技能を修得するための科目群「成蹊教養カリキュラム」を設ける。 (CP2-1) 「成蹊教養カリキュラム」に加え、「英語必修科目」「英語演習科目」を配置することで英語運用能力の涵養につとめるとともに、「ヨーロッパの歴史と文化」といったフォーカス推奨科目の配置により、より広範な教養を身につけることができる。 | (CP2) 広い教養と汎用性の高い技能を修得するための科目群「成蹊教養カリキュラム」を設ける。 (CP2-1) 「成蹊教養カリキュラム」に加え、「英語必修科目」「英語演習科目」を配置することで英語運用能力の涵養につとめるとともに、「ヨーロッパの歴史と文化」といったフォーカス推奨科目の配置により、より広範な教養を身につけることができる。 | (CP2) 広い教養と汎用性の高い技能を修得するための科目群「成蹊教養カリキュラム」を設ける。 (CP2-1) 「成蹊教養カリキュラム」に加えて、本学科専門科目の中に、日本文化や日本語力を集中的に学修するための科目群「日本探究科目」「日本語力錬成科目」を設ける。 | (CP2) 広い教養と汎用性の高い技能を修得するための科目群「成蹊教養カリキュラム」を設ける。 (CP2-1) 「成蹊教養カリキュラム」に加え、世界を大きな時空的広がりの中でとらえ、多角的に分析するための科目群「広域科目」を設ける。 | (CP2) 広い教養と汎用性の高い技能を修得するための科目群「成蹊教養カリキュラム」を設ける。 (CP2-1) 「成蹊教養カリキュラム」に加え、社会学・メディア研究の専門科目群、なかでも、街に出ることで「社会実践」から学べるよう「実践科目」群を設ける。 |
| CP3 | (CP3) 視野を広げ、多面的な思考を促進するとともに、異分野の学生との交流、多様な人々との協働を図るために、学部学科の枠を超えて幅広く学ぶことのできる仕組みを設ける。 (CP3-1) 自由設計科目を最大30単位設定し、関心に応じて学部内コース(芸術文化行政コース、日本語教員養成コース)のほか、全学共通として設置する副専攻・EAGLE科目、他学科・他学部・他大学の科目の履修ができるようにする。 | (CP3) 視野を広げ、多面的な思考を促進するとともに、異分野の学生との交流、多様な人々との協働を図るために、学部学科の枠を超えて幅広く学ぶことのできる仕組みを設ける。 (CP3-1) 自由設計科目を最大26単位設定し、関心に応じて学部内コース(芸術文化行政コース、日本語教員養成コース)のほか、全学共通として設置する副専攻・EAGLE科目、他学科・他学部・他大学の科目の履修ができるようにする。 | (CP3) 視野を広げ、多面的な思考を促進するとともに、異分野の学生との交流、多様な人々との協働を図るために、学部学科の枠を超えて幅広く学ぶことのできる仕組みを設ける。 (CP3-1) 自由設計科目を最大26単位設定し、関心に応じて学部内コース(芸術文化行政コース、日本語教員養成コース)のほか、全学共通として設置する副専攻・EAGLE科目、他学科・他学部・他大学の科目の履修ができるようにする。 | (CP3) 視野を広げ、多面的な思考を促進するとともに、異分野の学生との交流、多様な人々との協働を図るために、学部学科の枠を超えて幅広く学ぶことのできる仕組みを設ける。 (CP3-1) 自由設計科目を最大30単位設定し、関心に応じて学部内コース(芸術文化行政コース、日本語教員養成コース)のほか、全学共通として設置する副専攻・EAGLE科目、他学科・他学部・他大学の科目の履修ができるようにする。 | (CP3) 視野を広げ、多面的な思考を促進するとともに、異分野の学生との交流、多様な人々との協働を図るために、学部学科の枠を超えて幅広く学ぶことのできる仕組みを設ける。 (CP3-1) 自由設計科目を最大26単位設定し、関心に応じて学部内コース(芸術文化行政コース、日本語教員養成コース)のほか、全学共通として設置する副専攻・EAGLE科目、他学科・他学部・他大学の科目の履修ができるようにする。 |
| CP4 | (CP4) 思考力、表現力、課題解決力を集中的に錬成するために、(各学科の教育課程の適切な年次(に)少人数の演習科目を置き、さらに卒業論文(またはこれに代わるもの)の作成を必修とする。 (CP4-1) 1年次から4年次まで少人数による必修の演習科目を配置する。特に1年次から2年次にかけては、専門分野を英語で学ぶ演習科目を設ける。 (CP4-2) 「卒業論文」を4年間の学修の集大成と位置づけ、3・4年次の演習等で集中的に指導する。また、その形式及び内容は学科において厳正に審査する。 (CP4-3) 各学年の演習科目において、口頭及び文章での表現力、プレゼンテーション力を向上させる。 | (CP4) 思考力、表現力、課題解決力を集中的に錬成するために、英語英米文学科の教育課程の全学年に少人数の演習科目を置き、さらに卒業論文の作成を必修とする。 (CP4-1) 1年次から4年次まで少人数による必修の演習科目を配置する。特に1年次から2年次にかけては、専門分野を英語で学ぶ演習科目を設ける。 (CP4-2) 「卒業論文」を4年間の学修の集大成と位置づけ、3・4年次の演習等で集中的に指導する。また、その形式及び内容は学科において厳正に審査する。 (CP4-3) 各学年の演習科目において、口頭及び文章での表現力、プレゼンテーション力を向上させる。 | (CP4) 思考力、表現力、課題解決力を集中的に錬成するために、日本文学科の教育課程の全学年に少人数の演習科目を置き、さらに卒業論文の作成を必修とする。 (CP4-1) 1年次から4年次まで少人数による必修の演習科目を配置する。特に2年次は、古典文学、近現代文学、日本語学という基本3分野の演習科目をすべて必修とする。 (CP4-2) 「卒業論文」を4年間の学修の集大成と位置づけ、3・4年次の演習等で集中的に指導する。また、その形式及び内容は学科において厳正に審査する。 (CP4-3) 各学年の演習科目において、口頭及び文章での表現力、プレゼンテーション力を向上させる。 | (CP4) 思考力、表現力、課題解決力を集中的に錬成するために、国際文化学科の教育課程の全学年に少人数の演習科目を置き、さらに卒業論文の作成を必修とする。 (CP4-1) 1年次から4年次まで少人数による必修の演習科目を配置する。特に2年次には、「問題発見力」「リサーチ力」「社会実践」「アカデミックスキル」を修得する。 (CP4-2) 「卒業論文」を4年間の学修の集大成と位置づけ、3・4年次の演習等で集中的に指導する。また、その形式及び内容は学科において厳正に審査する。 (CP4-3) 各学年の演習科目において、口頭及び文章での表現力、プレゼンテーション力を向上させる。 | (CP4) 思考力、表現力、課題解決力を集中的に錬成するために、現代社会学科の教育課程の全学年に少人数の演習科目を置き、さらに卒業論文の作成を必修とする。 (CP4-1) 1年次から4年次まで少人数による必修の演習科目を配置する。4年間を通じて、「問題発見力」「リサーチ力」「社会実践」「アカデミックスキル」を修得する。 (CP4-2) 「卒業論文」を4年間の学修の集大成と位置づけ、3・4年次の演習等で集中的に指導する。また、その形式及び内容は学科において厳正に審査する。 (CP4-3) 各学年の演習科目において、口頭及び文章での表現力、プレゼンテーション力を向上させる。 |

文学部カリキュラムポリシー<2020年度以降入学者>

| | 大学共通 | 文学部 英語英米文学科 | 文学部 日本文学科 | 文学部 国際文化学科 | 文学部 現代社会学科 |
|-----|---|--|--|--|---|
| CP5 | (CP5) 自発性、積極性の達成のため、留学、インターンシップ等の単位認定の仕組み、及び上級者向けの選抜型の科目を設ける。 | (CP5) 自発性、積極性の達成のため、留学、インターンシップ等の単位認定の仕組み、及び上級者向けの選抜型の科目を設ける。 (CP5-1) 高い英語力を備え国際的な活動に関心のある学生のために「グローバル教育プログラム」を設ける。 | (CP5) 自発性、積極性の達成のため、留学、インターンシップ等の単位認定の仕組み、及び上級者向けの選抜型の科目を設ける。 (CP5-1) 各学年の演習科目において、櫻賞(日本文学科研究奨励賞)への応募を促す。 | (CP5) 自発性、積極性の達成のため、留学、インターンシップ等の単位認定の仕組み、及び上級者向けの選抜型の科目を設ける。 (CP5-1) 高い英語力を備え国際的な活動に関心のある学生のために「グローバル教育プログラム」を設ける。 | (CP5) 自発性、積極性の達成のため、留学、インターンシップ等の単位認定の仕組み、及び上級者向けの選抜型の科目を設ける。 |